# 1. 私について

## ◆両親と私

**＜誕生＞**



昭和20年9月21日、5人兄弟の長男として、横浜市根岸で生まれる。昭和17年から日本本土への空襲がはじまり、ついに昭和20年に広島、長崎に原爆が投下され、戦争が終わった。私は終戦直後に生まれた子供である。

「豊」という名前の名付け親は祖母である。貧窮していた時代なので、経済的にも精神的にも豊かにという意味で考えたという。父も母も名前はあれこれ考えていたようで候補はたくさんあったのだが、祖母に名付け親を譲ったようだ。ただし、私の名前を決めた話には、後日談がある。「豊」というのは、実は祖母の初恋の人の名前だったらしい。

**＜両親＞**

父・日出男は大正11年、母・静子は大正13年にそれぞれ山口県で生まれた。父は6人兄弟の長男で、体も話す声も大きく、男らしい性格であった。野球が好きで、私をプロ野球の選手にするのだと、少々迷惑な夢を持っていた。そのため、幼い時から父とよく野球をして遊んだ。

それに対して、母は5人兄弟の末っ子で、どちらかというと内向的な性格であった。父はとても厳しい人だったので、父の言うことを聞かないとよくビンタをされた。母はおろおろして見ていたが、父がいなくなると、あとでこっそり芋やかぼちゃを食べさせてくれた。

## ◆私の学生時代

**＜小学校の時＞**

我が家は裕福な方ではなかったので、幼稚園には行かなかった。そのため、集団生活は小学校が初めてであった。

家から徒歩10分くらいのところにある「日の出小学校」に通った。校庭は広くも狭くもなく、隣の中学校の校庭と繋がっている。当時、ベビーブームだったせいだろうか、私が三年生ぐらいの時に教室が足りなくなり、校庭にプレハブ小屋が建てられた。私たち子供にとっては、そのプレハブ小屋の教室になった子がうらやましかった。今、思い返してみると、校舎に比べてかなり簡単な造りで、夏は暑く、冬は寒くていいと思えるところはひとつもない。しかし、当時の私たちには、まるで子供たちだけのお城のように思えた。子供は何をうらやましがるかわからないものだ。

**＜中学校の時＞**

中学は小学校の隣の「朝日中学校」に通った。小学校からの顔見知りが多いので、人見知りをする私でも、苦労せずに馴染むことができた。勉強はあまりできる方ではなかった。

父もあまり勉強ができる方ではなかったらしい。孫の私をかわいがっていた祖父が通信簿をこっそり見せてくれた。父よ、これでは無理だ。トンビが鷹を産むなんてことは滅多にない。

父の影響で子供の時から野球ばかりしていたので、中学校では野球部に所属した。普段は「勉強しろ」と厳しく言う父も、野球に没頭している姿を見ると黙っていた。

**＜高校の時＞**

父の協力のおかげか、野球で才能を発揮し、スポーツ推薦で「柳第一高等学校」へ入学することができた。野球の名門校で、私が在学中も甲子園に2度出場した。そこで、高校時代は野球一色の毎日を送った。甲子園での経験は一生の思い出である。その後、大学には進学しなかったので、高校生の3年間が最後の学生時代であった。

## ◆結婚と娘の誕生

**＜結婚＞**

23歳の時に結婚した。妻は小学生からの幼なじみだった。よく言えば、気心知れた仲で安心できるのだが、私の子供時代も知っているのでたちが悪い。父親に叱られて泣いていたところやドブに足を突っ込んだところも見られているのである。

結婚して2年が過ぎた頃、そろそろ子供が欲しいという話題になった。そんな私たち夫婦に結婚3年目にしてやっと娘が誕生した。

**＜娘の紹介と成長記録＞**

名前は優子。優雅で優しい子に育ってほしいという意味で、私の母が名付けた。昭和45年7月20日生まれ。星座はかに座で、血液型はB型だ。生まれた時から3歳までの伸長と体重は次のとおりだ。

* 誕生時 身長49cm、体重3,250g
* 1歳 身長73cm、体重9,820g
* 2歳 身長86cm、体重11.3kg
* 3歳 身長93cm、体重13.1kg

そのあとも順調に身長を伸ばし、体重を増やしている。早くも両親の頑健さを引き継いだか、大きな病気をすることもなく、健やかに成長してくれた。

# 2. 港町・横浜

## ◆横浜市の成長

私が生まれた頃から比べると横浜も随分変わったものだ。昔からおしゃれな港町というイメージがあったが、私が子供の頃にできた「横浜マリンタワー」をはじめ「横浜ベイブリッジ」や「横浜ランドマークタワー」など、新しいスポットが続々と出来上がる。それに呼応するように「みなとみらい線」の開通など、交通の便もよくなった。

## ◆横浜中華街

先日、久しぶりに横浜中華街に行った。みなとみらい線に乗りながら、子供の頃に初めて横浜中華街に行った日のことを思い出した。今でこそ200軒近い料理店が並んでいるが、私が生まれた頃はほんの20軒ほどのお店しかなかった。昭和47年の日中国交回復から、どんどん店が増えていって、現在のような横浜中華街になった。

大学生だろうか、学生がたくさんいて、楽しそうに話しながら肉まんを食べている。この世代の人たちの中で横浜中華街の変貌ぶりに思いをはせる人はいまい。

## ◆山下公園

娘が子供の時によく行ったものだ。懐かしいので久しぶりに行ってみた。公園内をぐるりと散歩した。しばらく歩いたあと、「赤い靴の女の子」の像に、「お久しぶり」と挨拶。赤い靴の女の子は今日も膝を抱えて座り、海を見ている。

近くのベンチに腰を下ろしていると、母と子がジュースを飲みながら話していた。「おかあさん、なんで空は青いの？」「なんで夏は暑いの？」と子が聞いている。「なんでなんで」攻撃だ。この年頃の子供は、よくこの手の攻撃を仕掛けてくる。母は、子の夢を壊さないように言葉を選んで答えていた。一生懸命な横顔に「ご苦労様です」と心の中でつぶやく。

でも、我が娘の「遊んで！遊んで！」攻撃はもっと強力だった。あれには本当にまいった。

## ◆最近の私のお気に入り

最近よく訪れるのは、「赤レンガパーク」だ。私が子供の頃は国の所有物だったのに、今ではおしゃれなショッピング・ゾーンとして生まれ変わった。私の年齢層を考えると、少々訪れにくい場所であるかと思ったが、熟年層や家族連れも意外と楽しめる場所が多い。山下公園を通り、大さん橋で海を眺めたあと、赤レンガパークで妻とお茶をする、ナイスミドル（？）な生活を満喫している。

そのほかにも横浜には、いろいろなスポットがある。さすが港町横浜、住民は新しいもの好き（？）という感じである。これからも新しいテーマパークやスポットができたら、どんどん足を運んでみるつもりだ。